モ注意セシバナラナイ。

唾液モ同様ニ影響ヲ蒙ル、健康時ニハ弱鹼性デアルケレドモ、齒牙疾患ニ罹リ易イ状態ニアルトキニハ弱酸性ニナル、此場合ニハ「ビタミン」ノ含有量ノ多イ食物ヲ與ヘテ之ヲ調節セシバナラナイ。

最近食物及藥劑ニ紫外線照射ガ唱ヘラレテ來タ。ヴィンダウスノ劃時代的發見ニヨツテ「コレステリン」若クハ酵母又ハ麥角中ノ物質ニ照射シテ「ビタミン」Dヲ合成スルコトガ出來タ。此事實ハ「ビタミン」ノ化學的構造ノ研究ニ大ナル進歩ヲ與ヘタモノデアル。天然ノ「ビタミン」Dト同様ニ有效デアルガ、合成「ビタミン」ヲ與ヘタ後ニハ屢々重症ナ腎臟障礙、動脈硬化症ヲ起スコトガアルカラ注意スベキデアル。

以前カラ前述ノ様ナ目的ニ肝油ヲ用ヒテ居タガ、味ガ不快デアルノデ、「オッシン」(Ossin)ガ作ラレタ、是ハ「ビタミン」、石灰及燐鹽ヲ含有シテ居ルノデ齒牙ノ發育其他ニ有效デアル。

唾液ノ磷酸ニ就テ

Über die Phosphorsäure des Speichels (mit Bemerkungen über den Gehalt der Mundflüssigkeit an Lipoiden und Phosphatid) Von Prof. Dr. Rudolf

Weber, Köln. Z. f. Stomat. 28, 223 (1930)

唾液中ニハ血行中ノ物質カラ腺細胞ノ作用デ粘素、酵素、「ロダゲン」加里等ガ現ハレル、此外全身竝ニ唾液腺自身ノ代謝產物モ唾液中ニ移行スルモノデアル。ソレ故ニ唾液中ノ固有ノ物質、代謝產物及水素「イオン」濃度モ種々ノ原因デ影響ヲ受ケルモノデアル。唾液中ノ「カルシウム」量ノ變化ニ關シテハ多クノ研究報告ガアルガ、之ニ反シテ他ノ無機物ノ研究ハ少ク近來漸ク唾液ノ磷酸含有量ニ就テ研究ガ始メラレタ。

著者ハ先ヅエンチン及ビガイキン、シュミッツ及クロメッカ、クラウス、マイエルホッフ、ラウクセック、ジョスト等ノ研究ヲ基礎トシテ、試験管中デ唾液ノ有機磷酸ノ分解合成ノ經過、又コレ等ノ變化ノ際ニ口腔ノ細菌ハ如何ナル役目ヲナスカ、換言スレバ細菌發酵ヲ除外スレバ其經過如何、竝ニ空氣、炭酸及重炭酸曹達ノ影響ヲ報告シテ居ル。

朝食後唾液ヲ集メ之ヲ數部分ニ分チ、2, 4, 6, 8, 24時間ノ經過中ニ酸ノ溶解スル磷酸及無機磷酸ヲ測定シタ。唾液ハ試験ヲ終ル迄空氣ヲ遮斷スルコトナク室温ニ保ツタ、而セバ細菌ニヨル發酵現象ハ妨ゲラレナイ。測定法ハフイスク及サブバローノ比色法ヲ用ヒタ。健康人ノ場合ニモ唾液中ノ有機及無機磷酸ハエンチン及ガイキンノ測

定値ヨリ多イ、又各個人ニ對シテハ全燐量 17.3—27.7 mg%ノ移動ガアル。此結果ニヨレバ、スベテノ試験ニ於テ一様ナル有機燐酸ノ合成、分解ハ證明出來ナイガ患者ノ考デハ空氣中ニ放置シタ唾液ハ初メハ殆ンド常ニ無機燐酸ガ増加スルノデ、之レハ有機燐酸ガ分解スルノデアラウ。數時間經過後ニハ無機燐酸ヨリ有機燐酸ノ合成が行ハレ、24時間經過後ニハ有機燐酸ノ量ハ新シク採取シタ場合ヨリモ多クナル。

次ニ醗酵ヲ防グタメニ、唾液ニ「トルオール」及數滴ノ「クロ、フォルム」ヲ加ヘテ同様ニ測定シタ。此時ハ變化ハ認メラレルガ前ノ様ニ著明ナ變化ハナイ、即醗酵ヲ防グコトニヨリ兩燐酸ノ移行ガ制限セラレル。又ラワタセックガ血液ニ於テ述ベタ様ナ空氣、炭酸及重炭酸曹達ノ影響ハ唾液ノ兩燐酸ニハ見ラレナイ。尙血液ト異ナリ唾液中ニハ赤血球ニ類似ノモノガナイカラ、ジョストガ云フ、二燐「グリセリン」酸(Diphosphoglyzerinsäure)ハ存在セズシテ恐ラク醗酵唾液中ニ有機燐酸ガ増ストキニハ六炭糖二燐酸(Hexosediphosphorsäure)ガ増スノデアラウ。

著者ハ更ニ唾液中ノ「コレステリン」及燐脂質ノ測定ニ從事シタ。唾液中ノ燐酸ガ一部ハ腺自身ノ代謝、一部ハ一般代謝ニ歸シ尙蛋白ヲ含有スル以上脂質ヲ含ムト認メテモヨイ。此假定ハ齒牙ニ於テモ當嵌マル。

測定ニ當ツテ少量ハ誤リヲ起シ易イノデ、燐脂質トシテデナク「エーテル」ニ溶解性ノ燐トシテ述ベテ居ル。此ノ「エーテル」ニ溶解性ノ燐ガ燐脂質ニ相當スルナラバ、脂酸ノ量ハ増サチバナラナイ。ブロー、ベルカン及アレソノ方法ヲ用ヒテ測定シタ。遠心機ニカケナイ唾液ノ測定ノ結果ヲ見レバ、各個人ニ就テ年齢ノ相異ニヨリ初メハ異ツタ値デアツタガ4日經過後ニハ一定ノ値ニナツタ。コノコトカラ健康人デハ長時間ノ生涯中ニハ一定ニナルト云フコトガ出來ル。

次ニ「エーテル」ニ溶解性ノ燐ノ1日中ニ於ケル變化ヲ見タが大ナル變化ヲ認メナカツタ。尙「コレステリン」、複合脂質、「エーテル」ニ溶解性ノ燐ガ、唾液沈渣又ハ唾液ノ液體成分中何レニ結合シテ居ルカラ決定シタ。唾液沈渣ト其ノ液體成分トハ一時間半遠心機ニカケルト分ケルコトガ出來ル。コノ兩者ニ就テ實驗シタ結果脂肪酸及「エーテル」ニ溶解性ノ燐ハ完全ニ唾液液體成分中ニ存在シタガ、「コレステリン」ハ殆ンド完全ニ唾液沈渣中ニ存在シテ居タ。

最後ニ脂肪食ヲ採ルコトニヨリ「コレステリン」及複合脂質ガ増スカ否カラ實驗シタ。脂肪ヲトツタ後ニハ過「コレステリン」血症、過脂肪血症ガ起ルノデ、此様ナ物質ガ血清カラ唾液中ニ移行スルナラバ、唾液中ニ於テ此等ノ物質ノ濃度ノ變化ガ起ルト認メルノハ正シイ、75瓦ノ「バター」ヲ空腹時ニトリ、4時間半經過後血液ヲ採取シ其

脂肪血ノ程度ヲ見テ同時ニ唾液ヲトツタ。血液及唾液中ニハ「コレステリン」ハ増加シテ居ナイガ、脂肪酸及「エーテル」ニ溶解性ノ燐ハ増加シテ居タ。過「コレステリン」血症ヲ起シテ居ル場合ノ唾液中ノ「コレステリン」含量ニ就テハ最後ノ結果ニ到達シテ居ナイ。

歯牙ノ顎骨内埋伏ニ就テ

Über retinierte und verlagerte Zähne. Becker; Centralblatt für Zahnärzte.

52, 4, 1928

歯牙ノ顎骨内埋伏ノ原因トシテ舉グベキ主要ナルモノハ

1. 両親ヨリノ遺傳
2. 人種ノ混交
3. 兒童ノ疾患

等デアル。故ニ外人ノ移住ニヨツテ急激ニ人口ヲ増加シツ、アル如キ大都市ニ於テハ種々ノ遺傳質ガ重複スル關係上コノ現象ハ特ニ顯著デアル。

著者ガ Saarbrücken ニ於テ調査セル結果ニヨレバ齒牙及 ビ顎骨ノ異常極メテ多ク、28000 人ノ中咬合完全ニシテ且ツ全ク正常ナル齒列ヲ有スル者ハ僅カ 28 例デアツタ。

又 2500 人ノ被検査者ノ中ニ 100 個以上ノ埋伏齒牙ガ見出サレタ。コノ場合ニ於ケル齒牙埋伏ノ主因ヲ成スモノハ兒童ノ疾患デアルト考ヘラレル。即チ齒牙ノ形態形成ヨリ發露ニ至ル間ノ時機ニ於ケル全身の疾患ノ結果齒牙ノ大サト顎部ノ大サトノ間ニ成長ノ不鈎合ヲ生ズルノデアル。コノ際通常ハ上顎ニ於テハ犬齒、下顎ニ於テハ小臼齒ノ何レカ一本ガ壓迫セラレテ發露シナイコトが多い。

カ、ル成長障礙ヲ來ス全身疾患トシテハ佝僂病、結核、鼻呼吸ノ障礙、内分泌作用ノ不調等ガ舉ゲラルベク、局所的疾患トシテハ先ヅ第一ニ「カリース」デアラウ。

齒科外科

埋伏齒ト顎骨腫瘍トノ關係ニ就テ

Über den Zusammenhang von retinierten Zähnen und Blastomen der Kiefer.

von Dr. L. M. Lindenbaum. Z. fr. St. H. 3, 1930.

著者ハ、15 歳ノ男性ニテ右側下顎前齒部ニ生ゼシ鶏卵大ノ粘液纖維腫ヲ検査シ、ソ